能登川地区まちづくり計画書

（2017 年改定版）

ホップ♪ステップ♪のとがわ

一般社団法人能登川地区まちづくり協議会

目次

はじめに・・・

能登川地区まちづくり計画書（案）

はじめに

平成１９年３月１０日の設立総会において、「能登川の地にある伊庭内湖や猪子山、愛知川など豊かな自然と先人から引き継がれた歴史や生活文化とともに、地域の活性化に取り組んできた活動を行政に依存することなく、自ら次世代に継承し、子どもや成人、高齢者すべての住民が希望と生きがいをもてるまちづくりを進めることが私たちの大きな役目です。」と決議して活動してきた能登川地区まちづくり協議会（愛称：ホップ♪ステップ♪のとがわ）は、間もなく設立１０周年を迎えます。この間、地域の組織・団体や行政との協働により、地域コミュニティの強化を図りながら、複雑多様化する地区の課題解決に向けてさまざまな活動を行ってきました。

また、まちづくり協議会を取り巻く環境にも大きな変化がありました。具体的には、コミュニティセンター等の指定管理運営開始（Ｈ２４.４.１）、一般社団法人への移行（Ｈ２５.４.１）、やわらぎの郷公園指定管理運営開始（H26.4.1）、東近江市協働のまちづくり条例の施行（Ｈ２６.４.１）、全５３自治会のまちづくり協議会への加入（H26.１０.２８）、東近江市協働のまちづくり条例第１８条に基づく市の認定（H27.４.１）、能登川地区自治会連合会役員１３名の理事就任（H27.6.20）などです。

現行の「能登川地区まちづくり計画」は、平成２１年２月に実施した住民アンケート調査の結果等を踏まえて、同年１１月に策定しましたが、その後５年が経過し、計画の見直しが必要になってきました。

そこで、平成２６年９月に、能登川地区まちづくり計画策定委員会を立ち上げて、以来約２年間かけて、能登川地区の望ましい将来像を展望しながら、委員会での議論と住民のアンケート調査等を積み重ね、このたび、まちづくり計画の改定版の策定に至ったものです。

第１章　計画改定に当たって

１―１　計画改定の趣旨

この計画は、一般社団法人能登川地区まちづくり協議会が策定するものですが、能登川地区全体の計画とも言えるものであり、計画の実行に当たっては、地区住民が力を合わせて実践することが不可欠です。

多くの人々が一つの目標に向かって進むためには、実現させたい具体的な目標（将来像）と、それに取り組む道筋・方法を、みんなが共有できるものにしなければなりません。そのためには、住民の意思を尊重し、常にその思いを聴き取る仕組みを持っておくことが必須です。

今回の計画策定に当たっては、二度にわたる住民アンケート調査（H26 無作為抽出・H28 全世帯対象）、能登川中学校生徒を対象としたアンケート＆懇談会、びわこ学院大学学生の提言（レポート）、自治会との懇談会、まちづくりカフェ等を通じて（※　「資料編」参照）、住民の皆さんの多様な思いを聴き取り、できる限り反映することに努めました。

また、将来像を描き、それに至る道筋を決めていくという「バックキャスティング」の手順を踏むことにも留意しました。こうしたプロセスを経て作られた計画に向かってみんながともに進むことが、まちづくりの道だと考えます。

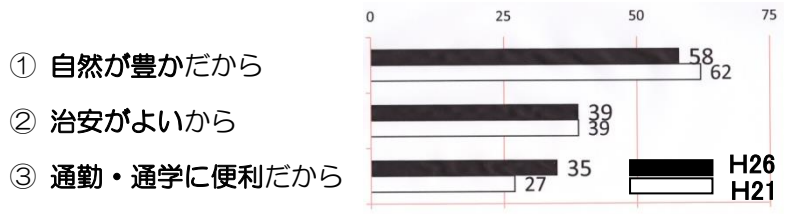
「まちづくり計画」とは、まちづくりの具体的な目標と取り組む方法を示すものです。この「まちづくり計画」は、行政や関係機関と連携をとりながら、地域に暮らす私たち住民が主体となって行動していくための、私たち自身の計画なのです。

１―２　計画の期間

能登川地区の西暦 2040 年の将来像を展望し、その実現のために各種の取り組みを進めますが、社会情勢や地区住民の要望の変化などが考えられることから、地区住民の皆さんと協議を重ねつつ、おおむね５年ごとに見直し及び改定を加えながら推進します。

第２章　能登川地区の現状と特性

〇能登川地区の住みやすいと思う点　上位３つ
【住民アンケート調査の結果から（H26）複数回答３つまで可】



（１） 地元の宝（自然・風土・歴史・文化）

〇琵琶湖や繖山、水郷など多くの自然に恵まれ、４２１ha が琵琶湖国定公園に指定されています。東近江市内で、唯一、琵琶湖に面したまちです。

〇鈴鹿山脈を源として、琵琶湖に流れる滋賀県東部地域最大の一級河川である愛知川が能登川地区の北部を流れています。愛知川では、堤防から高水敷にかけて河道内樹林が発達し、動植物の生息にとって貴重な空間が形成されています。

〇琵琶湖や里湖、愛知川の流れと豊かな湧水・自噴井戸、多くの小川が流れ、里山があり、緑・田畑に囲まれた豊かな自然の中で、人と動植物が共生するまち、水とともに暮らすまちです。

〇伊庭に代表される水郷は、能登川の風土の中で残ってきた貴重な「地域の宝」（「伊庭の水郷と伊庭内湖」近江水の宝選定（H21）・「伊庭の水辺景観」日本遺産認定（H27））であり、住民の皆さんの「生活の場」であることが特徴です。地元の語り部の皆さんのガイドが好評で、見ただけでは伝わらない風土や文化を知ることができます。

〇昭和３０年代まで、水車が精米や製粉に活躍しており、江戸時代から３９基あったことが確認されています。

〇愛知川の伏流水や大同川、瓜生川等の水が生活用水（伊庭町・福堂町・乙女浜町の「カワト（川の扉）」）となり、田畑を潤し、地場産業を発達させてきました。

〇垣見地区では、滋賀県と岐阜県にしか棲息していない絶滅危惧種「ハリヨ」が生息し、きれいな水にしか生えない「梅花藻」も見られます。

〇ＪＲ能登川駅から歩いて行ける猪子山山頂からは、琵琶湖の素晴らしい景観が一望できます。また、渡り鳥観察の絶好地となっています。

〇縄文時代にさかのぼる古い歴史を持ち、古墳や遺跡がいっぱいあります。子どもたちにとって、フィールド全体が「生きた歴史教科書」そのものです。

（２） 文化財（祭りなど）

〇国指定特別史跡の安土城跡（南須田町・きぬがさ町・近江八幡市）や県選択無形民俗文化財の「伊庭の坂下し祭り」など、先人が残した多くの遺産（文化財）があります。

〇中世のお城を中心とした城跡、館跡が多く残っています。

〇蔵や古い屋敷、美しい庭も残っています。

〇江戸時代に朝鮮通信使が歩いた「朝鮮人街道」が地区内を通っています。

（３） 交通

〇ＪＲ能登川駅は東近江市内で唯一のＪＲの駅で、平成２５年までは利用者の増加傾向が続いていましたが、平成２６年に大きく減少した後、平成２７年は若干ながら持ち直しています。

※　一日平均旅客乗車人員の推移

7,243 人（H23 年）→7,341 人（H24 年）→7,755 人（H25 年）
→6,955 人（H26 年）→7,166 人（H27 年）

ＪＲ能登川駅は新快速電車が停車する強みがあり、京阪神への通勤に便利です。

〇南北に縦断する幹線道路（県道大津・能登川・長浜線（朝鮮人街道）、湖岸道路（さざなみ街道））がある一方で、東西を結ぶ幹線道路が少なく、未整備路線（都市計画道路中学校線・ＪＲ東口線・愛知川左岸道路等）もあることから、能登川駅周辺では、交通事故や騒音等の発生など住民の生活に影響が生じています。

〇ＪＲ能登川駅を起点とした定期バス路線は、八日市駅行きと市ケ原行きの２路線があります。また、買物や通院、通学など日常生活に密着したコミュニティ交通として、「ちょこっとバス（大中線）」と「ちょこっとタクシー（ドリーム城東線・神郷線・新宮須田線）」の運行があります。

（４） 学び（教育・子ども・高齢者など）

〇児童施設（幼稚園、保育園、児童館）に加え、子育て支援センターなど、教育・子育て環境に比較的恵まれています。

〇学童保育の充実など、地域で子どもを育てる仕組みが整っています。

〇図書館・博物館・コミュニティセンターの機能が充実し、特色ある学びの場が確保されています。

〇青少年育成市民会議能登川支部を中心に、家庭・地域・学校（幼小中高）が連携した「あいさつ運動」が活発です。

〇子どもから高齢者までの生涯学習をサポートできる環境が整っています。

（５） コミュニティ・安全安心・健康医療福祉

〇自治会加入率が非常に高い（能登川地区：95.6%）（平成 28 年４月１日現在）

〇地域防災の中核である東近江市消防団が８方面隊・２６分団と女性分団の２７分団で活動していますが、このうち能登川地区については、第７方面隊（第１９分団から第２３分団）が管轄しています。

○自主防災組織が充実しています（能登川地区：36 組織化／53 自治会中）（平成28 年４月１日現在）。

○「e 防災マップ」、「防災かまどベンチ」、自主防災（リーダー）研修会など、地域防災活動に積極的に取り組んでいます。

○スクールガード（通学見守り）、防犯パトロール、愛のパトロールなど、自主的な防犯活動が活発です。

○交通安全会の活動が充実しています。

○医療機関数が多い。

○能登川病院を地域で支え守るために「能登川病院をよくする会」が活動しています。

○福祉関連等の事業所・施設数が多い。

○「のとがわ福祉の会」「ちょこっとサポートのとがわ」など、地域全体で福祉（ケア）を支える取り組みが広がりをみせています。

○認知症による徘徊者の早期発見・声かけ訓練が定着しています。

○高齢者を対象とした「いきいきサロン」、「あったかサロン」などの小地域活動（サロン活動）が活発です。

（６） 環境保全・地域エネルギー

○「びわ湖の日」や「環境美化の日」の一斉清掃など、県や東近江市と連携して環境美化活動に取り組んでいます。

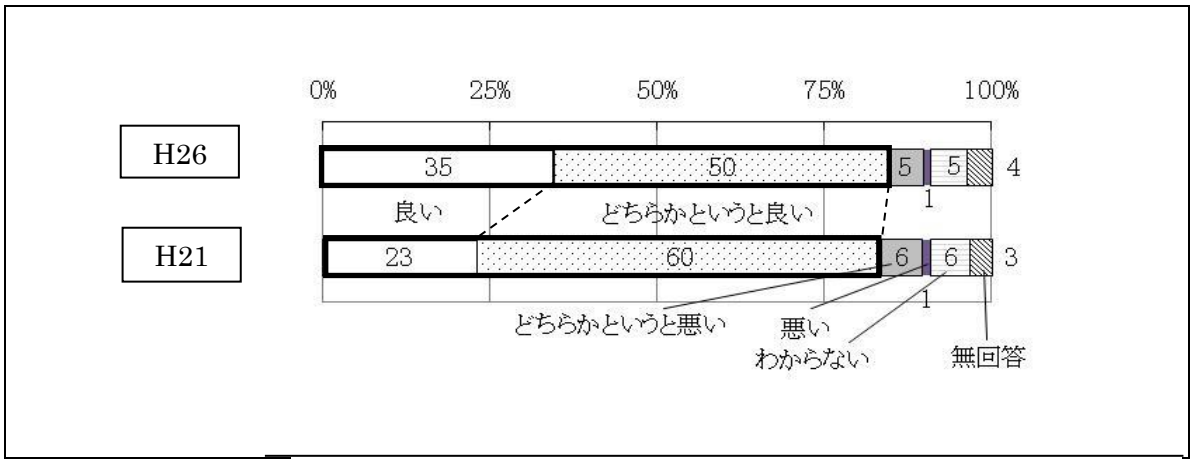
○能登川中学校生徒会主催の美化活動「フラ輪―プロジェクト」と協働し、ＪＲ能登川駅周辺の花壇設置と水遣りの活動を支援しています。

○資源循環・ごみ減量化としての廃食油回収、段ボールコンポストの普及促進に取り組んでいます。

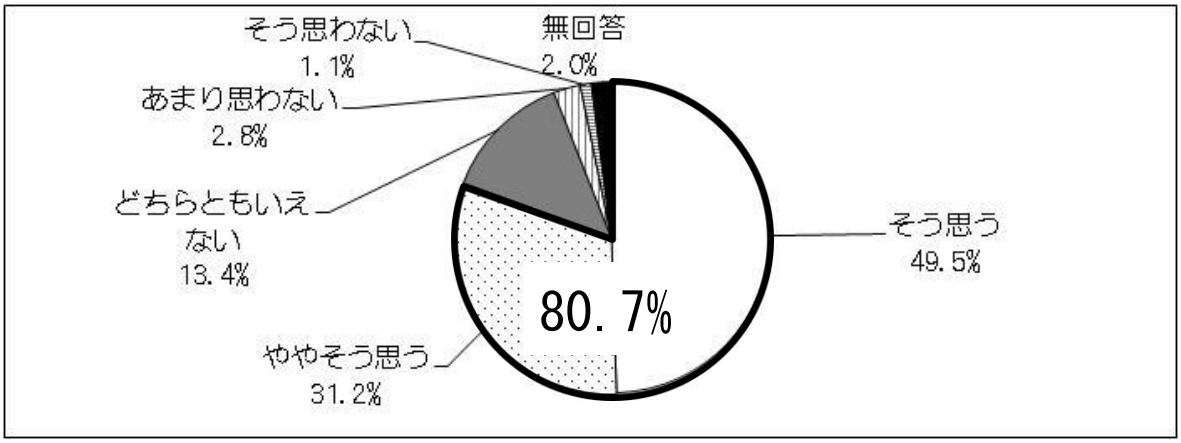
○能登川地区内には自然エネルギーとしての水資源が豊富にあります。大同川や瓜生川など主要河川沿いには自噴井戸が多く確認されていますが、そのほとんどが利用されていないのが現状です。

（７） 住みごこち・近所づきあい

○「能登川地区の住みごこちをどう思われますか」という設問に対して、「良い＋どちらかというと良い」と回答した人の割合は、H26 住民アンケートでは 85%となり、H21 年の 83%と比べて２ポイント増加しました。



○「近所づきあいを大切にしている」という設問に対して、「そう思う＋ややそう思う」と回答した人の割合は 80.7%となりました（H28 住民アンケート）。



（８） 住環境・にぎわい・観光

○成熟した市街地（京阪神や近郊都市のベッドタウン）となっています。

○人口減少・少子高齢化が進行します。

○ＪＲ能登川駅周辺での住宅開発の余地はまだ残されており、フラットなアクセスを考えると子育てファミリーやシニア世代にもふさわしい住環境だといえます。

○若者が遊べるアミューズメント関連施設が少ない。

○なだらかな平地が多く、美しい自然を愛でながらジョギング、ウォーキング、サイクリングができます。

○家族連れで自然を満喫できるアウトドアスポットが多くあります。

○集客できる観光スポットが少なく、それらを案内できるボランティアなどの人材育成も遅れています。

（９） 産業（工業・商業・農業・林業・漁業など）

○コンクリート製品やガラス繊維などの工業製品の製造業が立地しています。
長引く景気の低迷から生産量の抑制など経営の合理化が進められ、企業にとっては厳しい状況が続いています。

○豊かな水を活かした麻製品、よし、竹細工製品などの伝統産業も残っています。

○ＪＲ能登川駅周辺は一定の商業・サービス業の集積がありますが、それ以外の地域では必ずしも整備されているとは言えません。駅の東側にある能登川商店街は、さまざまな店舗が営業されているにもかかわらず、利用は近隣に住む高齢者が中心です。駅の西側に大型の商業施設が次々と立地したため、利用者が減少するとともに、空き店舗も増加しています。

○水の恵みにより育まれた田園が琵琶湖にかけて広がりを見せ、「農業のまち」という側面を持っています。近年の農産物をめぐる規制の緩和、農業従事者の高齢化や担い手不足など、農業を取り巻く環境は年々厳しくなっています。

○森林面積は、国有林が 79.02ha、民有林（市・県有林を含む）が 163.27ha あ

り、地区面積の約 6.6%を占めています。林業経営については、林地の所有規模も零細で、林業を業として営む人も皆無状態です。

○漁業については、漁場環境の悪化やブラックバス・ブルーギルなどの外来魚の繁殖などによる魚介類の生息状況が変化し、漁獲量が減少しています。

○琵琶湖においては、アユ、コイ、フナ、モロコなどの魚類を得る水産業も営まれています。

（１０）情報環境

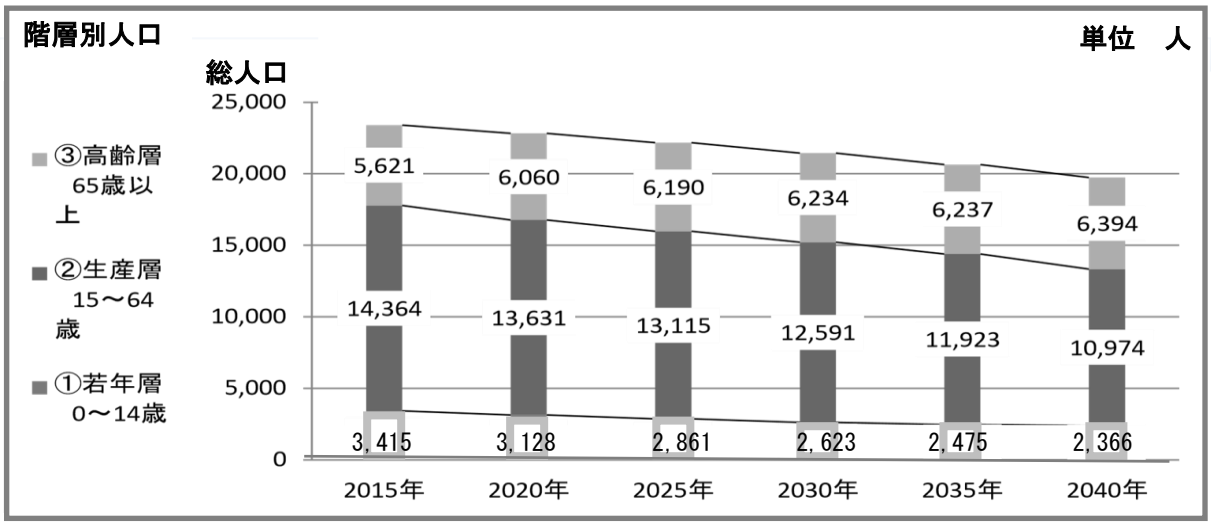
○まちづくり協議会独自の情報発信ツールとしては、①まちの情報紙「ホップ♪ステップ♪のとがわ（年６回全戸配布）」、②ホームページの運営、③会員情報紙「のとまち協 NEWS（毎月発行）」、④「まち協 ラジオかわらばん（毎週土曜日放送）」があります。

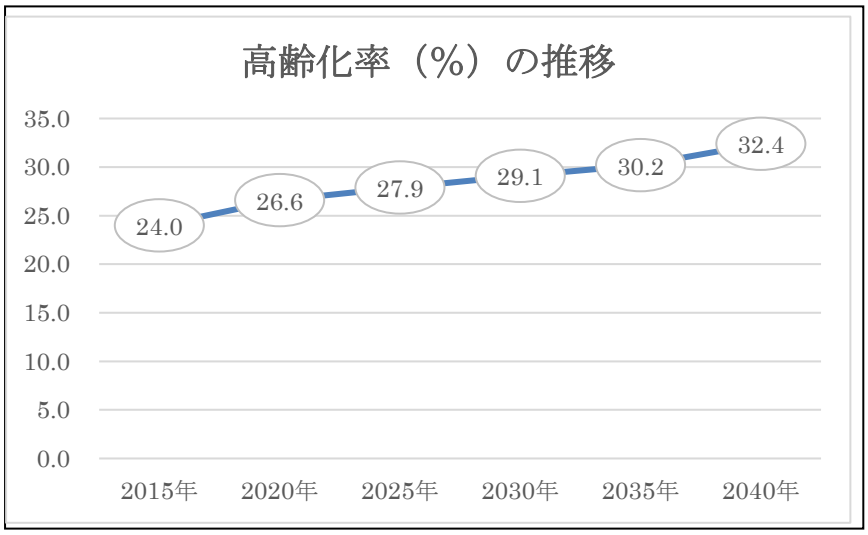
○それぞれのツールについては、随時見直しやリニューアルを実施していますが、十分とは言えない状況です。

【データでみる能登川地区の現状と将来】

○能登川地区の将来推計人口

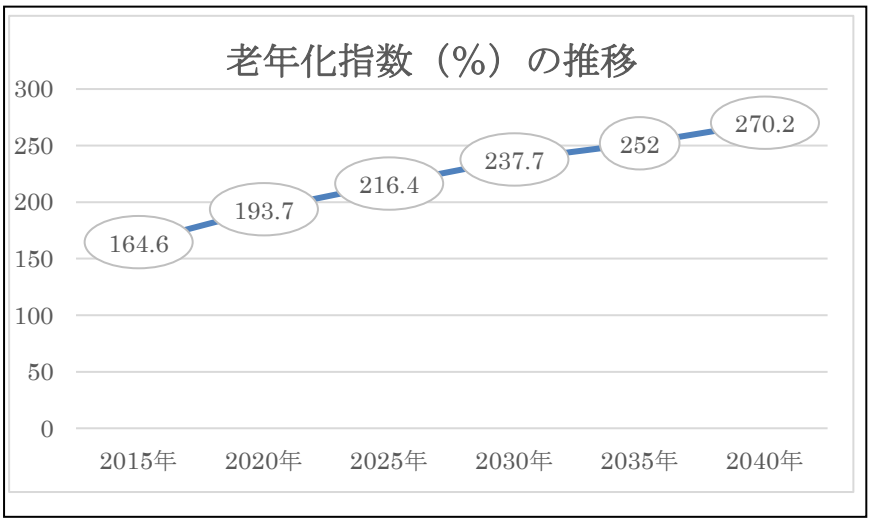
※　国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来人口推計（平成 25 年３月推計）」を使用して推計された「東近江市の将来推計人口（2010 年～2040 年）」の年代別変化率を能登川地区にそのまま当てはめて試算したもの





【注記】
○高齢化率（%）＝65 歳以上人口÷総人口×100

※　WHO（世界保健機構）や国連の定義によると、７%超で「高齢化社会」、14%超で「高齢社会」、21%超で「超高齢社会」



【注記】
○老年化指数（%）＝65 歳以上人口÷0～14 歳人口×100

※　年少人口との比であるため、人口高齢化の程度を敏感に示す。

第３章　能登川地区の課題

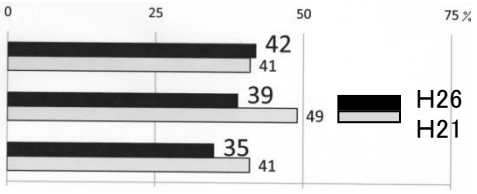
〇能登川地区の住みにくいと思う点　上位３つ

【住民アンケート調査の結果から（H26）複数回答３つまで可】

①余暇や娯楽を楽しむ場所が少ないから

②医療・福祉サービスが不十分だから

③働く場所が少ないから



（１）生きものにぎわい

私たちの命の土台である「生きものにぎわい（いろいろな生き物が互いに関係を持ちつつ生息していること）」が、自然環境の悪化に伴い、これまでにない早さで刻一刻と失われつつある中で、里山や里湖には、この「生きものにぎわい」のめぐみが今なお残されています。そこで、里山や里湖に親しむ機会を増やし、それらを大切に守る心を育てるとともに、一人ひとりがその保全活動に努めることで、「人と自然が共生するまちづくり」を進めていく必要があります。

多くの生き物を育む水辺の景観は、水と人の営みが調和した文化的景観として、多くの現代人をひきつけています。平成 27 年４月に、日本遺産「琵琶湖とその水辺空間～祈りと暮らしの水遺産～」の中の「内湖と水路のスポット」の一つとして、「伊庭の水辺景観」が認定されました。美しい景観は、私たちに多くの恵みを与えてくれるとともに、心のよりどころ（ふるさと）になることから、これからも大切に守り、育てていく必要があります。

水に関連する祭事や信仰、伝統、生活パターン（様式）、水車といった「水文化」も「生きものにぎわい」のめぐみと考えられ、その保全・再生・活用のための啓発活動を行うことが大切です。

（２）地域の宝

各地域には、「地域の宝」がたくさんありますが、その存在が知られずに、眠っている（活用されていない）状況が多くあります。地域の宝と課題を整理することは、地域住民にとっても地域を見直し、将来を展望する上でとても重要です。

また、地域の宝の存在を広く周知するためには、テーマごとにマップに落とし込んで「見える化」するとともに、住民の皆さんが興味を持ちやすいように「ストーリー化」することが有効と考えます。

（３）歴史・文化

自然・地理的環境に恵まれ、縄文時代から江戸時代に至るまでの遺跡が数多く存在する歴史豊かなまちです。これらの文化遺産や地域の祭りや行事などの伝統文化は、住民の心豊かな生活環境をつくるための大切な財産であり、それらを保護し後世に伝えるとともに、まちづくり活動に活かしていく必要があります。

また、住民の多様な芸術文化活動も活発で、こうした活動は住民それぞれの自己の充実・啓発や生活の向上に資するにとどまらず、地域社会への参加と連帯感を育てるものとして、その役割は極めて大きいと考えます。

（４）産業振興

【農業】

- 今後は、担い手の確保や付加価値の高い特産品の創造、食の地産地消の推進、環境こだわり農業の推進、６次産業化などにより、農業の振興と地域の活性化を図る必要があります。

【林業】

- 今後、森林に対する住民意識の高揚と適正な保全・管理を図るとともに、住民の憩いの場や学習の場として活用できる環境の整備や機会づくりが必要です。

【水産業】

- 漁獲量の増加対策に加え、漁業者の高齢化や後継者不足への対応が大きな課題となっています。

【工業】

- 将来性の高い企業の誘致も課題の一つです。
- 伝統産業や地場産業の振興・育成なども進めていく必要があります。

【商業】

- 空き店舗の増加への対応が課題となっており、商店街を牽引する人材の育成と魅力ある店舗づくりによる商店街の活性化を図っていく必要があります。

【観光】

- 埋もれている観光資源を掘り起こし、磨きをかけ、「見える化」「ストーリー化」するとともに、それらを案内できる人材を育成する必要があります。
  観光振興に当たっては、「地域外からの資金獲得」という視点を明確に持つことが大切です。

【雇用】

- 地域雇用機会の増大促進について、官民一体となった取り組みが求められます。

（５）交通（鉄道・道路）

交通利便性の強みを維持するため、ＪＲ能登川駅の利用者を増やす対策に、近隣市町と一体となって取り組んでいく必要があります。また、ＪＲ能登川駅は東近江市の玄関口であることから、駅東側周辺の整備に当たっては、道路や商業基盤はもちろんのこと、東近江地域全体の活性化を視野に入れる必要があります。

道路交通の利便性や安全性、快適性を高め良好な環境を確保するため、広域幹線道路や駅周辺の市街地をはじめとする生活道路の整備に加え、愛知川左岸堤防道路の早期整備の実現が強く求められています。

また、ちょこっとバス等を利用した公共交通手段の充実を図ることが大きな課題となっています。

さらに、歩行者の視点にたった歩道の設置など、誰もが安全で快適に通行できる人にやさしい道路整備も必要です。

（６）教育・福祉・生きがい・人材づくり

少子高齢化・人口減少が進行する中、教育と福祉は喫緊の課題となっており、すべてを行政頼みにするのではなく、地域全体で教育と福祉を支えるモデルをつくる必要があります。

住民アンケート調査（H28）の結果からも、「福祉のまち」、「子育てしやすいまち」に対する住民ニーズの高まりを読み取ることができます。

少子化や核家族化の進行に伴い、家庭や子どもたちを取り巻く環境が大きく変化する中、当地区でも子育てに対する不安・悩みが高まっており、その解消が課題の一つです。

青少年の健全育成を阻害する要因を的確に把握することに努めるとともに、地域のみんなで育てる気運を高めつつ、学校・家庭・地域社会の相互の連携を密にし、「家庭や地域の教育力」を高める必要があります。

平成 26 年に実施した住民アンケート調査では、「能登川地区の住みにくいと思われる点」の第二位が「医療・福祉サービスが不十分だから」となっており、大きな課題の一つです。

ボランティアやＮＰＯ活動の気運が高まる中、このようなテーマ型のコミュニティ活動と従来の地縁型のコミュニティ活動（自治会活動）がより強く連携していくことが求められています。

高齢者が社会参加や生きがいのある生活をおくれるよう、老人クラブ活動やボランティア活動などへの支援や交流の場づくりを進めるとともに、住民が自らの健康をつくり出し、生きがいをもって積極的に社会参加できる環境の整備が必要です。

少子高齢化の進行に伴って、地域づくりの担い手不足がますます深刻化していくことが懸念されることから、若者世代、子育て世代の定住・移住の促進や元気なシルバー人材の活用が課題となっています。また、買い物代行サービスや生活支援情報の収集・発信など、生活支援の新たな仕組みを整えていくことも必要です。

（７）防犯・防災

住民アンケート調査（H26・H28）の結果から、「安全・安心なまち」に対する住民ニーズの高まりを読み取ることができます。

犯罪が多様化する中、青少年を犯罪から守るため「子ども 110 番の家」の設置などが進められてきましたが、ますます多様化する犯罪を未然に防止するためには、警察など関係機関との連携による地域ぐるみで自主的な防犯活動を促進するとともに、住民一人ひとりの防犯意識の高揚を図る必要があります。

また、近年、増え続ける空き家・空き店舗は、犯罪や災害の温床にもなることから、その解消を図る必要があります。

防災対策については、道路や河川の改修などの基盤整備が進められる一方で、災害用備蓄資機材の整備や、避難所・避難経路の指定なども重要な推進項目です。

災害に強いまちづくりの面では、自主防災組織の強化充実やリーダー育成に努め、住民や消防団・自警団などの関係機関が一体となって地域の防災力の向上、活性化を図っていく必要があります。また、近年、取り組みを始めた「e 防災マップづくり」の推進に当たっては、自治会とまちづくり協議会、自治会間のネットワークをさらに充実させる必要があります。

（８）環境保全・地域エネルギー

環境美化活動は、美しいまちを将来の世代へ引き継ぐための取り組みであり、広い意味では、地球の温暖化防止や自然環境の保護等にもつながる身近で幅広い取り組みといえます。何よりも大切なのは、一人ひとりが地域の環境に対して関心を持って行動することです。

こうした観点を踏まえ、県や東近江市はもとより、家庭・地域・企業・学校等と連携・協働して、環境美化活動に継続的に取り組んでいく必要があります。

地域エネルギーについては、地域に必要なエネルギーを地域のエネルギー資源でまかなうこと（「自然エネルギーの地産地消」）を推進する必要があります。また、自然エネルギーとしての水資源の災害時における利用システム（飲用・生活用水＆エネルギー）構築の可能性について研究することも検討の余地があります。

第４章　まちづくりの理念

４－１　まちづくりにおける将来像とは

まちづくりは、先に示したような地域の特性を伸ばし、課題を解決し、そこに住むことでさらに充足感を感じられるまちになることを目的としています。

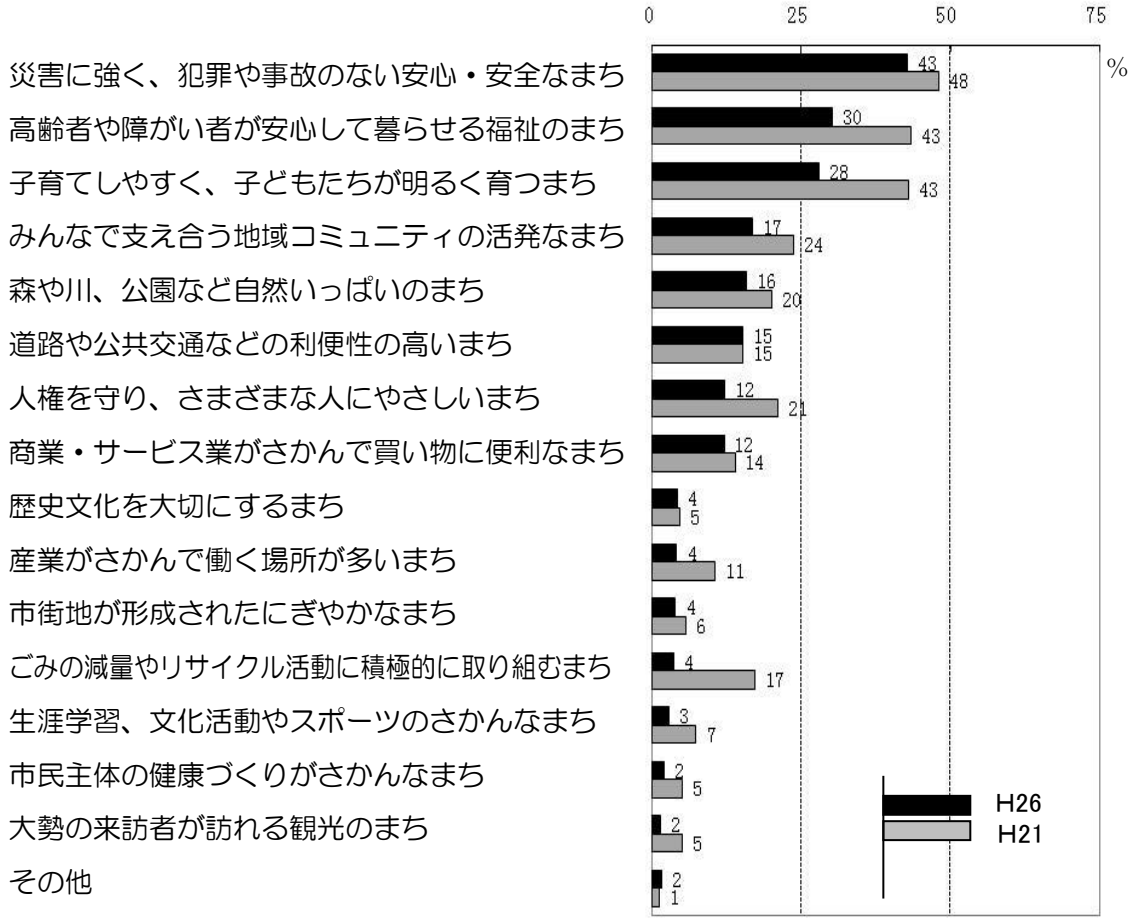
必要なことは、住民個々の利害を超えて、すべての人々が共感できる将来像を持つことです。

多くの調査をもとにここに提案する将来像は、決してまちづくり協議会だけのものではなく、住民の皆さんと共有し、ともにまちづくりに参画していくための「道しるべ」です。

４－２　能登川地区の望ましい姿

〇能登川地区の将来像（望ましい姿）

【住民アンケート調査の結果から（H26）　複数回答２つまで可】



（１）安全・安心なまち

自然災害への備えのあるまち。

犯罪や事故の少ないまち。

自主防災に励むまち。

（２）健康・医療・福祉の充実したまち

住民一人ひとりが健康の維持・増進に取り組むまち。

地域保健医療が充実し、能登川病院が地域医療の中核となるまち。

高齢者・障がい者が安心して暮らせるやさしいまち。

（３）子育てしやすく、子どもたちが明るく育つまち

地域で子育てできる環境が整っているまち。

子どもたちが伸び伸びと健やかに育つまち。

（４）人が活き活きと働けるまち

農林水産業、商工業、観光業などがバランスよく発展しているまち。

人が活き活きと働ける環境が整っているまち。

東近江市の玄関口にふさわしいまち。

（５）歴史文化を守り創造するまち

歴史と伝統文化を継承・発展させるまち。

新しい文化の創造に取り組むまち。

（６）自然環境や自然エネルギーを守り育てるまち

美しい自然環境や水資源などの自然エネルギーの保全・活用に取り組むまち。

琵琶湖の環境保全・再生、里山・里湖づくりなどのエコ活動が盛んなまち。

（７）人が集い、交流するまち

住民の手により各種イベント等が多く開催され、人が集うまち。

世代間・地域間の交流が盛んなまち。

４―３　能登川地区の共通の目標

この計画において、能登川地区の共通の目標は、

「住みよい　住みたい　住み続けたい　水車のまち　能登川」とします。

※　水車の輪のように住民一人ひとりが手を結び、地域の絆を育んで住み続けていること。

以上の内容を理念として、今回のまちづくり計画を策定しました。

第５章　事業の提案～課題解決に向けて～

この章では、第４章の理念に基づき、第３章で示した能登川地区の課題解決に向けて今後５年をめどに取り組む事業を、次の考え方に基づき提案します。

① 能登川地区まちづくり協議会が主体となって、東近江市、さまざまな団体、住民と協働して取り組む事業に絞り込みます。

② アンケートや懇談会等を通じて把握した住民のニーズやご意見等を踏まえた事業を基本としつつも、将来を見通して必要な事業も盛り込みます。

③ 計画を確実に推進するための進行管理を毎年度実施し、事業の評価・点検を行います。

テーマ	方策	事業の提案	到達目標
生きものにぎわい	里山（森林）の整備	森林再生プロジェクト等への支援	○里山が住民の憩いの場、自然学習の場として活用されていること。 ○住民がふるさとの良さを実感し、愛着や誇りを感じていること。 ○まちづくりの担い手が増えていること。
		地域のボランティア団体との連携協力による森林整備	○森林保全に対する住民の意識が高まり、実践者が増えていること。
	水辺景観の保全・活用	日本遺産認定をきっかけにした「伊庭の水辺景観」等の保全・活用に対する支援	○人々の生活を水が支えていることの理解・実感が深まり、実践活動が活発化していること。 ○景観の保全と住民の日常生活の調和が図られていること。
	水文化の保存・再生・活用	水文化の普及啓発	○水文化の持つ高い価値に気づき、水文化を保存再生しようという機運が醸成されていること。
地域の宝	地域の宝さがしと宝磨き	自治会の宝さがしと宝磨き	○住民がふるさとの良さを実感し、愛着や誇りを感じていること。 ○来訪者にも魅力を案内できること。
		「ｅてんこもり（仮称）」自治会ページの更新	
	地域資源の見える化	地域資源のマップづくり	○地域資源の情報を「見える化」することで、その「分布」と「つながり」がわかりやすくなり、その活用や人のネットワーク化が進んでいること。

テーマ	方策	事業の提案	到達目標
歴史・文化	ふるさと散歩道普及・活用	ふるさと散歩道ガイドの実施 「ふるさと散歩道」ルート散策会の開催	○住民がふるさとの良さを実感し、愛着や誇りを感じていること。 ○来訪者にも魅力を案内できること。
		「ふるさと散歩道紹介ＤＶＤ」「ふるさとばなしＣＤ」などの制作・活用	
	公共施設との連携	能登川博物館・図書館との連携を強化した歴史・文化イベントの拡充	
	人材づくり	子どもを対象にした「（仮）能登川ふるさと塾」の開催	○住民がふるさとの良さを実感し、愛着や誇りを感じていること。 ○来訪者にも魅力を案内できること。 ○元気なシルバー世代（アクティブ・シニア）の活躍の場が創出され、まちづくりの担い手が増えていること。 ○子ども同士、子どもと大人の交流（世代間交流）が進んでいること。
産業振興	農業振興への支援	食の地産地消としての郷土料理の普及	○「産地と食卓の交流」「健康的な食生活の実現」「旬と食文化への理解」「環境保全」「郷土への愛着」につながっていること。
		環境こだわり農業の推進	○人や生き物が安心して暮らせる田んぼの環境が回復していること。
	観光振興への支援	観光モデルコース（プラン）の提案	○観光地リピーターとＪＲ能登川駅の利用者が増加していること。 ○地域の知名度が向上するとともに、地域住民にとっても誇りとなっていること。
		ＪＲ能登川駅および駅周辺施設への観光情報の提供	○観光情報に触れられる機会が増えていること。 ○観光交流拠点（鉄道の玄関口）としてのＪＲ能登川駅の認知度が向上していること
		ＳＮＳを活用した観光口コミ情報の収集と発信	○口コミ（拡散）効果により、観光客が増加するとともに、地域への興味・関心が深まっていること。
		東近江市観光協会との連携による観光ガイドの育成	○観光によるまちづくり人材の育成とシルバー世代の活用が図られていること

テーマ	方策	事業の提案	到達目標
産業振興	雇用確保への支援	雇用確保のための官民協働の取り組み	○地域内雇用が増え、定住・移住の増加につながっていること。
交通（鉄道・道路）	政策提案・要請活動	ＪＲ能登川駅利用促進	○利用者が増加することで、新快速電車が停車するという強み（交通利便性）が維持されていること。
		ＪＲ能登川駅東口の活性化	○交通渋滞の緩和とにぎわいの創出が図られ、鉄道の玄関口にふさわしい環境になっていること。
		道路整備	○駅周辺の渋滞が緩和されるとともに、地域内の移動が円滑になっていること。
		愛知川左岸堤防道路の早期整備	○交通渋滞が緩和されるとともに、地域内の移動が円滑になっていること。 ○堤防が強化されることで防災対策にもつながっていること。 ○河畔林が整備されることで、「生きものにぎわい」が維持されていること。
		「ちょこっとバス（タクシー）」の利用促進	○「ちょこっとバス（タクシー）」の利用者が一定維持され、交通弱者の移動手段として役立っていること。
教育・福祉・生きがい・人材づくり（1）	子育て支援と食育活動	子育て支援や食育活動をテーマに活動している関係機関等との協働	○子育てや食育をテーマにした、地域で支え合う仕組みが整っていること。
		子育て応援活動支援	○地域で子育てをする環境がより充実していること。
		子どもを対象にした「（仮）能登川ふるさと塾」の開催（再掲）	○地域で大人が子どもを育てる環境が整っていること。 ○子どもたちの礼儀作法や協調性が育まれていること。
		やわらぎの郷公園「親子フェスタ」の開催	○親子がふれあえる場が地域に整備されていること。

テーマ	方策	事業の提案	到達目標
教育・福祉・生きがい・人材づくり（2）	地域包括ケアシステムとの連携	能登川病院と地域住民によるサポート体制づくりと実践	○地域医療を守るという住民の意識と実践が定着し、安心した生活が送れていること。
		生活支援サービスの連携体制への参画	○住み慣れた地域で安心して暮らすことができる官民協働の福祉のまちづくりや住民同士の支え合いにつながっていること。
		認知症による徘徊者の早期発見・声かけ訓練	○認知症についての住民の理解が深まるとともに、実際に徘徊者が出た場合の早期の発見・保護につながっていること。
	健康づくり	健康づくりのための講座・セミナー等の開催	○健康づくり（維持・増進）や病気予防に対する住民意識が高まり、健康づくり活動が活発になっていること。
		健康福祉活動団体への支援と協働	○教育・医療・福祉・保健など広義の健康福祉に関係する団体がまちづくりに参画し、有機的なつながりができていること。
	体力づくり	まち協主催のスポーツイベントの開催	○健康の維持増進や体力の向上、病気の予防につながっていること。 ○参加者が増加し、地域内外の多様な世代の住民が交流していること。
	世代間・地域間交流の基盤（きっかけ）づくり	指定管理施設を活用した新しいコミュニティの形成、居場所づくり （指定管理事業）	○施設利用者やイベント参加者が増加し、地域内外の多様な世代の住民が交流していること。 ○施設利用者やイベント参加者の満足度が高まっていること。 ○指定管理施設が「地域の絆（人々の出会いとつながり）」を再生する拠点となっていること。
		地域イベントの共催	○イベント参加者・来訪者の増加によって地域間交流が促進され、地域イメージが向上していること。

テーマ	方策	事業の提案	到達目標
教育・福祉・生きがい・人材づくり（3）	世代間・地域間交流の基盤（きっかけ）づくり	住民が親しく交流できるイベント情報の収集・発信の充実	○多様な情報発信ツール（紙媒体・電子媒体・ラジオ等）を通じてイベント情報が広く行き渡り、多くの住民の参加を得て、親しく交流ができていること。
		「能登川大好き人間大集合！」イベントの仕掛け	○住民がふるさとの良さを実感し、愛着や誇りを感じていること。 ○地域外の人が「能登川ファン」になっていること。 ○地域間交流が進んでいること。 ○まちづくりの担い手が増えていること。
		食のイベントの開催	○「食」を通じて人々の出会いとつながりが育まれていること。
	人づくり・ネットワークづくり	まちづくり担い手育成セミナー（ワークショップ）の開催	○受講者の中からまちづくり活動に参加する人が増え、まちづくりの担い手が育成されていること。
		若者チャレンジ応援	○若者がまちづくりに参画する機会が増え、人とまちが元気になっていること。
		活動団体連絡会の開催	○各団体の情報交換が活発になり、連携が深まって、まちづくりの主要な課題解決に向けた機運が盛り上がっていること。
	若者の定住促進	結婚応援セミナーの実施	○結婚に関する有益な（正しい）情報を得ることで、結婚のハードルが下がっていること。 ○結婚を希望する人の出会いの場が増加していること。
		空き家・空き店舗の活用	○若者世代や子育て世代等の定住・移住につながっていること。
		雇用確保のための官民協働の取り組み（再掲）	○地域内雇用が増え、若者の定住・移住の増加につながっていること。

テーマ	方策	事業の提案	到達目標
防犯・防災	空き家（空き店舗）対策	空き家・空き店舗の活用（再掲）	○良好な住環境が維持され、防犯・防災面にも役立っていること。
	自主防災組織の充実	「自主防災研修会」「自主防災活動リーダー研修会」の開催	○全自治会において自主防災組織が結成されていること。 ○住民の防災意識と実践的（総合的）な地域防災力が向上していること。
		防災ワークショップの開催	
		出前講座の実施	
		体験（実践）型防災訓練への支援	
		災害時における自噴井戸の利活用システムの構築研究	○災害時における水・電気エネルギーの供給が一定確保されていること。
	防災リスクの見える化	「e 防災マップづくり」の推進	○全自治会が「e 防災マップづくり」に参加していること。 ○マップを使いながら、災害時に行動できる官民一体となった防災体制が整っていること。 ○マップづくりを通じて地域の絆が深まっていること。
環境保全・地域エネルギー	環境美化	「フラ輪一プロジェクト～花でつながる地域の輪～」への支援	○花いっぱいにする活動の輪が地区全体に広がっていること。 ○住民の世代間・地域間交流が深まっていること。
		やすらぎの花公園の管理運営	○住民に親しまれる安全で魅力ある公園になっていること。
	ごみの減量化の推進	段ボールコンポスト利用促進	○家庭菜園づくりが広がっていること。 ○ごみの減量に向けた住民の意識が高まり、実践者が増えていること。
	再生可能エネルギーの普及	廃食油回収	○全自治会における回収場所の設置および回収率の向上が進んでいること。 ○資源循環に対する住民の意識が向上していること。
	エネルギーの地産地消の推進	自然エネルギーの地産地消の推進	○エネルギーの地域内循環についての住民の理解が深まり、実践者が増加していること。

第６章　まちづくり計画とまちづくり協議会

６―１　まちづくり協議会の基本姿勢

まちづくり協議会の基本姿勢は、広く住民の声を集約し、東近江市やさまざまな団体と協働して、まちづくりのための企画・活動を行い、住民主体のまちづくり活動を実践することです。

今後、まちづくり計画の実践に当たっては、まちづくり協議会が主体となって取り組んでいくことを基本としますが、構成員である各自治会や住民団体はもとより、住民一人ひとりとの協働が不可欠となります。そのためには、まちづくり協議会の存在と活動が住民の皆さんに広く知られ理解されていることが大前提となることから、今まで以上に広報活動（情報発信）と地域に出向く活動に力を入れていきます。

地域に暮らす住民のみなさんが交流を深めながら、まちづくりの主体としてさまざまな機会に積極的に参画し、声をかけ合い、支え合い、助け合える関係を築くことで、地域の課題に対して的確かつ柔軟できめ細い対応ができるようになると考えます。そうした地域の関係性の「つなぎ役（コーディネート役）」として、また、行政との「パイプ役」として、まちづくり協議会が、その機能を発揮していくことによって、地域（住民）から信頼される組織に発展することを目指します。

６―２　まちづくり協議会の役割

まちづくり協議会の果たすべき役割は、次の４点に整理できます。

① 身近な課題を解決し、人とまちを元気にする。
② 地域の良さを次代へ継承する。
③ 地域にある活動の芽を拾い上げ、伸ばしていく。
④ 多様な主体の横のつながりを広げる。

おわりに

まちづくり計画の改定はゴールではなく、スタートであることを改めて確認しておきたいと思います。

この計画をもとに、住民主体のまちづくりの実践が積み重ねられ、その結果として、能登川地区の生活環境が改善され住民の生活が良くなった時に、初めて能登川地区の共通の目標である「住みよい　住みたい　住み続けたい　水車のまち　能登川」の実現に近づくことができると考えます。

計画の改定に当たって、できる限り住民の皆さんのご意見・ご提案等を反映するよう努めたところですが、計画の実行段階においては、その重要性がさらに高まることになります。住民の皆さんの思いを聴き取る仕組みを組み込んでいきますので、積極的な参画をお願いいたします。

資　料　編

資料編　目次

１.計画改定の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24

２.住民まちづくりアンケート調査の結果・・・・・・・・・・・・・25

３.能登川中学校生徒に対するまちづくりアンケート結果・・・・27

４.びわこ学院大学学生の提言（レポート）　・・・・・・・・・・34

５.市民活動団体説明会の開催結果・・・・・・・・・・・・・・・・36

６.まちづくりカフェの開催結果・・・・・・・・・・・・・・・・・38

７.一般社団法人能登川地区まちづくり協議会　組織図・・・・・41

８.能登川地区まちづくり計画策定委員会　委員名簿・・・・・・42

１．　計画改定の経過

○まちづくり計画（現行計画）の策定（H21.11月）

事業推進

○まちづくり計画改定のための策定委員会の立ち上げ（H26.9月）
※【委　員】谷口委員長（びわこ学院大学短期大学部教授）以下9人
※【開催回数】H26：９回、H27：８回、H28：１１回

○住民まちづくりアンケートの実施（H26.9月～10月）　→　公表（H27.4月）
※　無作為抽出　　1,198配布→530回収（回収率：44.2%）
※　能登川地区の住みごこち評価とまちづくりへの思いを把握し、計画改定に活かす

○「住民アンケート～次世代につなぐ23,000人の思い」の実施（H28.2月～3月）
※　各自治会を通じて全世帯に配布　　8,049配布→4,586回収（回収率：57.0%）
※　各世帯と自治会とまちづくりの現状を把握し、まちづくり計画改定の参考にする

集計結果を説明
○自治会長会（4/23）　○まちづくり委員研修会（5/16）　○まちづくり協議会定時総会（5/28）

○中学生アンケート＆懇談会（若者の意見吸収）
※　アンケート　7/11全校一斉実施→7/14回収
※　懇談会　8/25生徒会10人と意見交換
○大学生の地区内視察（地区外の意見吸収）
※　6/23現地視察→レポート提出（7/27）

○自治会ごとの結果概要を説明
※　6月から7月にかけて自治会懇談会を開催　（6自治会）

○策定委員会で議論継続（6月～10月）

○まち協の理事会で経過報告（7/22）

○まち協の運営委員会で計画書（原案）を説明（8/23）
○理事に計画書（原案）を周知（郵送）（8/24）

○市民活動団体へ計画書（原案）を説明（9/9）

○「まちづくりカフェ」の開催（9/24・25）
※　計画書（原案）の住民参加型説明会（学区ごとに4回）

○計画書（案）をまち協会長に提出（10/17）

○まち協の運営委員会・理事会を経て決定（10/21）

○計画書の説明（H29.3.11）　※　設立１０周年記念式典にて

○事業推進　※　必要に応じて計画改定

○自治会の運営に活用
※　まち協は支援（後方・側面）

２．住民まちづくりアンケート調査の結果

①平成２６年１０月実施

能登川地区の住みごこち評価とまちづくりへの思い

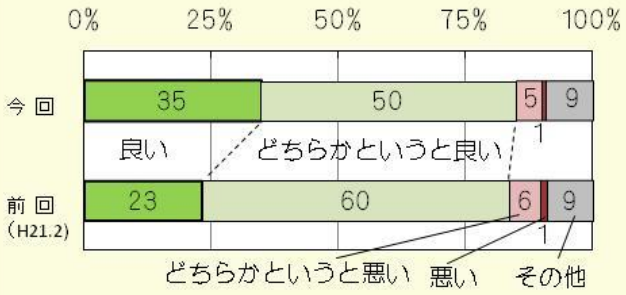
まちづくり計画再策定のためのアンケート調査結果（平成26年度実施）

一般社団法人能登川地区まちづくり協議会では、まちづくり計画再策定の参考とするため、能登川地区の住みごこち評価とまちづくりへの思いについてのアンケート調査を平成26年10月に行いました。

●対象者: 能登川地区在住の18歳以上の住民の中から無作為に抽出した1,198名

●回答数: 530名（回答率 44.2%）

能登川地区の住みごこち評価



能登川地区の住みごこちが「良い」または「どちらかというと良い」との答えは全体の85％で、前回（注）より2ポイント増加しています。特に「良い」と答えた人は35％あり、前回の23％から約1.5倍に増加しました。

（注）前回調査：平成21年2月に当まち協で実施した今回と同様の調査。対象者＝700名、回答者＝323名（回答率＝46.1%）

能登川地区の住みやすいと思う点
（回答選択肢14項目中のトップ7）

NO	回 答	%
1	自然が豊か	58
2	治安がよい	39
3	通勤・通学に便利	35
4	買い物が便利	32
5	道路・バス・鉄道など交通が便利	31
6	自治会など近所づきあいがしやすい	27
7	町並みや緑などまちが美しい	13

能登川地区の住みにくいと思う点
（回答選択肢14項目中のトップ7）

NO	回 答	%
1	余暇や娯楽を楽しむ場が少ない	42
2	医療・福祉サービスが不十分	39
3	働く場が少ない	35
4	自治会など近所づきあいが面倒	19
5	買い物が不便	18
6	道路・バス・鉄道など交通が不便	16
7	文化芸術やスポーツ活動の機会が少ない	9

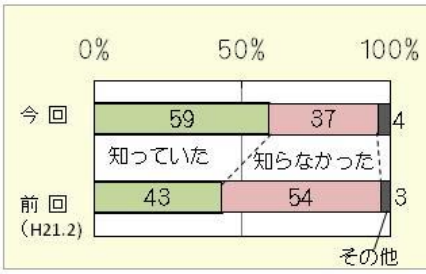
＊ 表中の「%」は、回答選択肢の中から、「住みやすい点」と「住みにくい点」においては３項目を、「将来像」においては２項目を選択していただいた合計数を、回答者数（530）で除した値です。

＊各欄の灰色帯の長さは「%」を示しています。

能登川地区の将来像（望ましい姿）

NO	回 答	%
1	災害に強く、犯罪や事故のない安心・安全なまち	43
2	高齢者や障がい者が安心して暮らせる福祉のまち	30
3	子育てしやすく、子どもたちが明るく育つまち	28
4	みんなで支え合う地域コミュニティの活発なまち	17
5	森や川、公園など自然いっぱいのまち	16
6	道路や公共交通などの利便性が高いまち	15
7	人権を守り、さまざまな人にやさしいまち	12
8	商業・サービス業がさかんで買い物に便利なまち	12
9	歴史文化を大切にするまち	4
10	産業がさかんで働く場所が多いまち	4
11	市街地が形成されたにぎやかなまち	4
12	ごみの減量やリサイクル活動に積極的に取り組むまち	4
13	生涯学習、文化活動やスポーツのさかんなまち	3
14	市民主体の健康づくりがさかんなまち	2
15	大勢の来訪者が訪れる観光のまち	2

参考：能登川地区まちづくり協議会の認知度



能登川地区まちづくり協議会の認知度は５９％で、前回調査時の約1.4倍に増加しました。

ホップ・ステップ・のとがわ第48号（H27/4/1発行）に掲載

②平成２８年２月実施

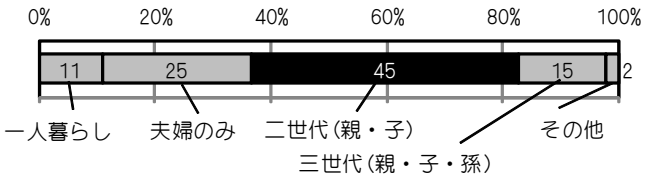
平成28年2月実施

能登川地区全世帯対象アンケート調査結果グラフ
～次世代につなぐ23，000人の思い～

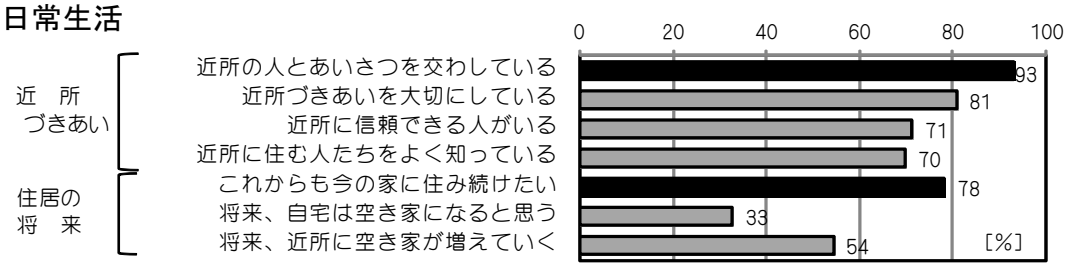
調査票 配布・回収状況

配布数	8，049
回収数	4，586
回収率	57 %

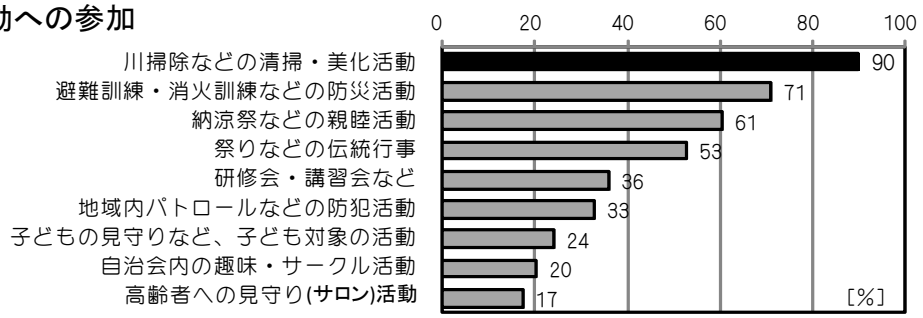
回答者世帯構成



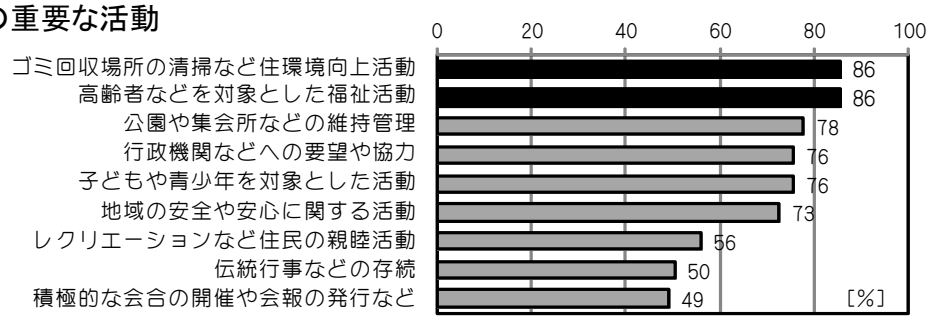
日常生活



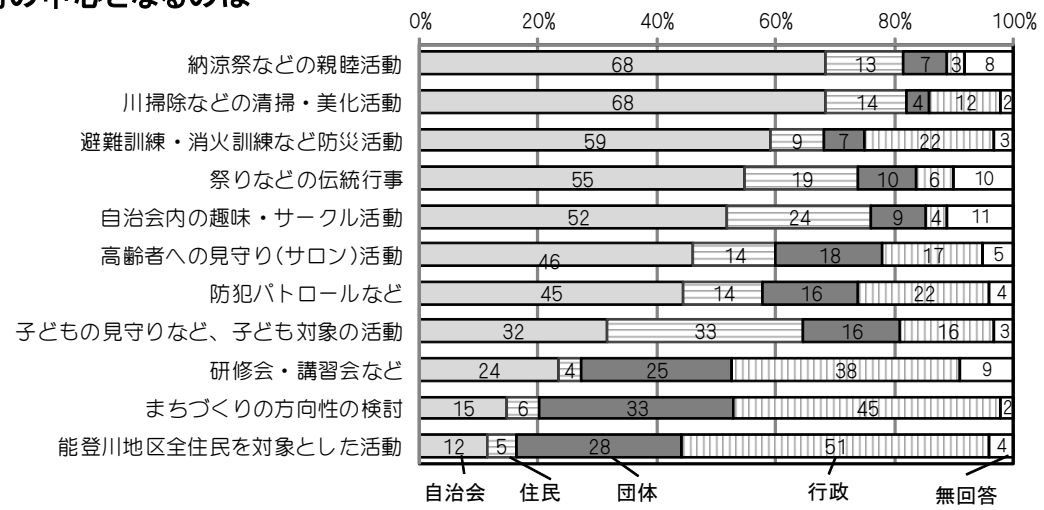
自治会活動への参加



自治会での重要な活動



活動の中心となるのは



３―①　能登川中学校生徒に対するまちづくりアンケート結果

〇実施日：平成 28 年７月 11 日
〇アンケート回収数：576

能登川地区の誇れるものや大切にしたいものは何ですか？
（場所・取り組み・仕組み・特産品など）

【回答が多かったもの】
★水車（カヌーランド）・・・・突出して多かった
★猪子山、★豊かな自然・きれいな水、★交通利便性（新快速が停車する能登川駅）、★えびす講、★祭り（伊庭の坂下し祭りほか）、
★今の（ままの）能登川

【その他】
＜場所＞
★琵琶湖、★琵琶湖に沈む夕日、★伊庭内湖、★森林、★能登川地区全て（まるごと）、★井戸、★博物館、★図書館、★商店街（商店）、★コンビニ・スーパー、★コミュニティセンター、★神社仏閣、★歴史のある街並み、★文化遺産、★遺跡公園
＜取り組み・住民気質など＞
★ライティング・ベル、★バードウォッチング、★あいさつ運動、★歴史、★伝統行事、★伝統的な文化や技術、★ボランティア活動、★フラ輪―プロジェクト、★清掃活動（ゴミ拾い）、★エコスクール、★ふれあいフェア、★資源回収、★運動会、★ドラゴンカヌー、★のとピー（のとがわ福祉の会のゆるキャラ）、★田舎（の雰囲気）、★人間、★子どもの多さ、★人の優しさ、★笑顔、★生き物を大切にする心、★平和
＜特産品・地域資源など＞
★近江だるま、★特産品（大中スイカなど）、★田んぼ（お米）、★麻織物、★伝統料理、★鮒ずし、★近江牛、★新鮮な野菜、★ヨシ、★ホタル、★ハリヨ

能登川に住み続けるとした場合、または一度能登川を出たとしても将来戻ってくるとした場合、どんな施設やイベントなどがあればいいですか？

【回答が多かったもの】

★老若男女が触れ合える（楽しめる）イベント、★エンタテイメント（ショッピング・アウトレット）モール、★アミューズメント施設（ゲームセンター・映画館・カラオケなど）、★（大きな）お祭り、★（大きな）公園・遊園地、★おしゃれな飲食店（レストラン・カフェ）、★動物と触れ合える場所（イベント）

・・・いずれも「楽しい！」がキーワード

★今のまま（でよい）

【その他】

＜施設＞

★アスレチック、★プール、★コミュニケーションが図れる場所、★水車（祭り）、★大型書店、★オシャレな服屋、★駅周辺施設（の充実）、★福祉施設（老人ホーム・介護施設など）、★育児しやすい環境（保育園・幼稚園を増やすこと）

＜イベント＞

★スポーツイベント（マラソン、駅伝など）、★花火大会、★大運動会、★えびす講・縁日、★伝統文化、★お年寄りとの交流会、★児童との交流の場、★季節のイベント、★有名人が来るイベント、★みんなが川に入る（水に親しむ）日、★イルミネーションイベント、★特産品を集めたイベント

＜生活環境＞

★美化活動・美しい生活環境、★豊かな自然・水、★温かい田舎の町、★仕事しやすい環境

大人になった時、能登川がどんなまちになっていたら良いと思いますか？そのキャッチコピーがあれば提案してみてください。

【回答が多かったもの】

★自然が豊かなまち、★自然と共存（共生）するまち、★水と自然のまち

・・・「自然」がキーワード

★安心して暮らせるまち、

★今と変わらないまち、

★子どもから大人まで楽しめるまち

【その他】

＜水車・水のまち＞

★水車のまち、★水車だけでもなんかいい感じのまち、★水車があり水が豊かなまち、★環境にやさしいまち、★水がきれいなまち

＜絆・つながり＞

★みんなが暮らしやすいまち、★思いやりがあふれるまち、★あいさつがしっかりできるまち、★犯罪のない（安全な）まち、★犯罪・事故０（ゼロ）で安心できるまち、★いじめ（非行）のないまち、★平和なまち、★助け合いができるまち、★やさしい人が多いまち、★障がい者にやさしいまち、★落ち着きあふれる親しみやすいまち、★自立（自律）したまち

＜田舎と都会の混在＞

★古き良きまち、★ちょっと都会のまち、★都会の便利さと田舎の安心感のあるまち、★人口が増加するまち、★自然と都会の機能を併せ持つまち、★伝統を守り続けるまち、★のどかで歴史あるまち、★発展するまち、★「なつかしいなあ」と言えるまち、★若者が多くて明るいまち、★きれいなまち、

＜楽しい＞

★にぎやかで楽しいまち、★めっちゃ楽しいまち、★皆が楽しめてあこがれるまち、★イベントが多いまち、★笑顔がいっぱいのまち、

（具体的なキャッチコピーのアイデア）

★スマイル・タウン、★住みやすいまち能登川～自然と笑顔を大切に～、★新しい日本の首都・能登川、★「自然と近代化＝６：４」のまち、★理想の田舎、★「つなげよう水車みたいな能登川輪」、★「スキップ　ルンルン　いいまち　能登川」、★「ハッピー　快適　能登川」、★「フライング・ザ・能登川」、★「よどむな能登川」、★「自然が一番！」、★世界一楽しいまち、★日本一親切なまち、★「ごみ０（ゼロ）　笑顔 100　あいさつ 100」、★「笑顔はええかお　の・と・が・わ」、★「みんなで作る　ステキ+能登川！」、★水の恵みと緑の環境のまち、★「田舎の中の都会の中の田舎」、★「のんびりできて、とても明るく、かわいい花が咲いている、らえるまち」、★「輝やけ能登川～未来につなぐ希望の光～」、★色とりどりのまち、★「住みやすいまち　ナンバー１（ワン）」

もし、チャンスがあれば、どのような地域活動やボランティア活動に参加したいですか（参加できますか）？　※　現在参加しているものを含めて

【回答が多かったもの】

★ゴミ拾い・草むしり（清掃活動）、★河川愛護活動（川掃除・びわ湖一斉清掃）、★自然環境保全活動（里山保全・再生、緑化、植林、ヨシがり）、★資源回収活動（ペットボトル・アルミ缶回収など）・・・「環境保全活動」がキーワード
★募金活動、★被災地支援活動（災害ボランティア）、★地域のお祭り（神輿担ぎなど）

【その他】

＜自然・環境系＞

★外来魚駆除活動、★花の世話（フラ輪一プロジェクト）

＜社会福祉系＞

★困っている人（高齢者や障がい者など）を支援する活動、★チャリティー・ウォーク、★外国人サポート活動、★つくし児童館の活動、★スクールガード（子どもの見守り活動）、★高齢者見守り（お年寄りの役に立つ）活動、★福祉や児童関係の行事

＜まちづくり系＞

★あいさつ運動、★子ども安全パトロール、★安全を呼びかける活動、★まちづくり（まち起こし・地域活性化）、★子ども会行事、★滋賀をいい県にする活動、★見回り、★交流会活動（地域の人と仲良くする活動）、★伝統文化の伝承活動、★動物愛護活動

＜イベント系＞

★ドラゴンカヌー、★魚の放流、★遊園地をつくる活動、★和菓子作り、
★えびす講、★ラジオ体操、★運動会

能登川をどのようなまちにしたいですか。ご意見やアイデアをご自由にお書きください（能登川地区全体）。

【回答が多かったもの】

★豊かな自然を活かす（自然がいっぱいあるまち）、★ゴミのないきれいなまち

・・・「美しい自然・環境」がキーワード

★挨拶をするまち、★みんながつながっているまち、★平和なまち、★誰も生活に困らないまち、★安心・安全なまち・・・「絆」「つながり」がキーワード

（具体的なアイデア）

★みんなが触れ合えるイベントを仕掛ける

【その他】

＜自然・環境＞

★自然と人間が支え合っているまち、★緑いっぱいのまち、★自然と調和しながら発展するまち、★資源を最大限に活用できる「ECO」なまち、★空が見える（高い建物が少ない）、★騒音がないまち

＜絆・つながり＞

★子どもが生き生きと暮らせるまち、★人のために行動する能登川、★みんなが平等なまち、★笑顔いっぱいでいじめのないまち、★結構いい感じのまち、★凶悪事件（非行）のないまち、★まとまりのあるまち、★コミュニケーションがよくとれるまち、★譲り合いの精神、★差別のないまち、★田舎は田舎なりの良さ、★子どもがいっぱい、★少子高齢化に取り組めるまち、★人が多すぎない、★「健康第一」のまち

＜楽しい・交流＞

★賑やかなまち、★明るいまち、★楽しいまち、★楽しくていろいろ協力できるまち、★まちのために協力できる、自分のまちを好きでいられる、★他県・他市の人と交流できるまち、★他のところからのイメージが良いまち、★買い物に便利なまち、★少しの都会化、★他の地域から尊敬されるくらい良いまち、★観光客が多く来るまち、★観光のまち（観光収入が多いまち）、★有名なまち（水車など）

＜便利＞

★もっと便利なまち、★仕事場所の確保、★住みやすいまち、★交通の中心であるまち、★現在以上に交通網が発達したまち、★住環境が整備されたまち、

（具体的なアイデア）

★買い物や遊ぶところを増やす、★能登川オリンピック、★猪子山を活用できるイベント、★楽しい施設をたくさんつくる、★学校のグランドの有効活用（例えば遊園地）、★もっと頻繁にクリーン活動を行う、★びわ湖を守る、★水車をシンボルにする、★水車からきれいな水が流れていて精米をしている風景の復活、★自転車置き場の整備、★公園の遊具の増設、★体育館を大きくする、★街灯を増やす、★東近江市の玄関、八日市とのアクセスを密にし、官庁街を移転する、★新快速電車が停車する利便性をもっと活かす、★（駅前等の）歩道の設置、★美しい夕日やきれいな水をもっとアピールする、★歴史のある神社仏閣を目玉にする、★目玉をつくって集客する、★能登川の宝物をもっとPRする、★地域の水を活かす

能登川をどのようなまちにしたいですか。ご意見やアイデアをご自由にお書きください（自分の住んでいるところ（自治会））。

【回答が多かったもの】

★みんながつながっているまち、★あいさつがたくさんあるまち、★近所づきあいが良く地域で協力して良い地域をつくる・・・「絆」がキーワード

★若い人が多いまち、★祭りが盛んなまち、

★今のままでよい

（具体的なアイデア）

★街灯を増やす

【その他】

＜自然・環境＞

★ポイ捨てのないまち、★きれいなまち、★田畑・緑あふれる社会、★環境を美しく、★静かなまち、★歴史が残り、自然があるまち

＜絆・つながり＞

★高齢者を大切にする、★いじめのないまち、★みんなが仲良く、★道路交通法を守っているまち、★みんな友達、★凶悪事件のないまち、★おっとりして、落ち着けるまち、★困らないまち、★周りの家のことを考えられる思いやりのあるまち、★違法駐車のないまち、★マナーを守るまち、★ボランティアに積極的に参加するまち、★もめごと（争い）のないまち、★行事にみんなが参加できるまち、★誰もが幸せな場所、★人情にあふれているまち、★危険なところが少ない地区、★年齢関係なくみんなが話せるまち、★幼い子どものモラルがしっかりしているまち

＜楽しい・交流＞

★子どもも大人も楽しめるまち、★楽しいまち、★地域の祭りがめっちゃ楽しい、★子どもが多いまち、★祭りがたくさんあるまち

＜便利＞

★都会、★都会と言われない程度の田舎の雰囲気、★そこそこ栄えるまち、

★もう少し楽に買い物ができるまち、★みんなが不便なく暮らせるまち

（具体的なアイデア）

★地域のイベントに参加する人を増やす、★行事などをもっとつくる、★地域ならではのイベント、★中学生でも参加できるイベントの開催、★ハロウィン・パーティ、★飲食店を増やす、★公園のクリーン作戦、★休憩場所の設置、★子ども会の活性化、★公民館の有効活用（例えば、子どもが遊べるようなところにする）、★子どもの数を増やす対策、★高齢化にストップ、★公園の遊具を増やす、★空き家を減らす対策、★不審者から地域を守る活動、★地域の関わりを増やす、★道を広くする、★バスの増便、★カーブミラーの増設、★祭りの存続・松明の復活、★このままだと消えてしまうので、消えないように知恵を絞る、★昔ながらの風景を大切にする、★危険な動物が出ないようにする

３―②　能登川中学校生徒との懇談会結果

〇開催日：平成 28 年８月 25 日
〇参加者：生徒会 10 名の皆さんに参加いただきました。

＜祭りなどの地域行事＞
★伊庭の坂下し祭りはテレビでもよく取り上げられており、ＰＲ効果が高い。
★伊庭の坂下し祭りに参加することを、「自慢」「誇り」と感じている。「非日常」を体験できるということが、楽しく、嬉しい。
★祭りを盛り上げるためには、人と人が盛り上がることが大切である。
★一緒にやり遂げると、達成感を感じることができ、誇りを持てる感覚になる。
★「地域のつながり」を深められるような企画がほしい。
★小学生と中学生を分けてイベントを開催すれば、参加しやすくなると思う。
★遊びに行く時は、近江八幡に行っている。これは、「日常」である。
＜水車のイメージ＞
★水車には「原始的な力」「自然の力」を感じる。
★水車は「機械」「（近代）技術」ではなく、「本来のもの」「古典的なもの」である。
★「能登川の宝」として、水車に触れる機会をもっと増やしてアピールすればいい。
★水車は大きくて、迫力がある。能登川のあちこちに水車が見られる。
★水車が「風景の一部」と思われている。風景以外にも活用すればいい。
★ヨシを商品化して「水車のまち」のイメージとタイアップしアピールすればいい。
＜福祉のイメージ等＞
★「福祉」には、「高齢者福祉」「障がい者福祉」「介護福祉」のイメージがある。
★「ふれあい」というイメージかなあ・・・。
★子どもと大人がお互いに分かり合える場というイメージかなあ・・・。
★多様な人々の「交流」をもっと深めればいい。
★地域で高齢者と若い人が語り合える場（多世代が交流できる場）が増えればいい。
＜歴史・自然＞
★能登川の「歴史」を知ることも大切である。年配の方にインタビューして、歴史を知ることも良い機会になると思う。
★能登川は東西に広い。琵琶湖側は歴史・自然を感じることができるが、東側にはそうした資源（素材）が少ない。
＜居場所づくり＞
★居場所づくりに困っている人は、周囲にはあまりない。
★大人と交流する機会があったらいいと思う。
★リアルな「ふれ合い」の場がほしい。ＬＩＮＥでは相手の表情や声がわからない。
＜事業企画・運営＞
★文化祭では自主企画・運営をやっているが、それは子どもを対象としたものであり、「まちづくり事業」となると、全世代の価値観に合わせる必要があると思う。
★９月に職場体験があるが、自分たちで企画して、有名な食材を使った駅弁をつくるような体験もしてみたい。

４．びわこ学院大学学生の提言（レポート）

【現地視察】
〇実施日：平成 28 年６月 23 日
〇視察先：小川の自噴井戸、能登川水車とカヌーランド、
伊庭の街並み・景観
〇参加者：学生 25 名の皆さんに参加いただきました。
【提言（レポート）】
〇提出日：平成 28 年７月 27 日

皆さんが感じられた「地域の宝物」

★能登川水車とカヌーランド
★自噴泉（小川・伊庭）
★水力発電（小川）
★水路・きれいな水（伊庭）
★ホタルとコイ（伊庭）
★働く水車（能登川水車とカヌーランド）
★カモとネコ（能登川水車とカヌーランド）
★田舟（伊庭）
★日本唯一の狛犬（伊庭）
★カワト・地下水の生活利用（小川・伊庭）
★古いお寺や神社・寺の集まり（小川・伊庭）
★野鳥（能登川水車とカヌーランド）
★のんびりした風景
★浸水の跡（伊庭）
★石垣・城跡（伊庭）
★宗祇法師の出自地（伊庭）

まちづくりのアイデア

★きれいな水を食文化に活用
★水車の活用（省エネ・環境保護・自家発電の地域的取り組み）
★水路を活かす（イベント）
★自然・野生動物・コイ・ホタルなど（ふれあい・観察）
★資源を利用したアトラクションやプログラムの開発
★生活文化の伝承（特に水に関連して）
★神社仏閣の観光利用（京都感覚）
★水郷景観の保存活用
★歴史の資料を充実
★ＢＢＱなどレジャースポットに

能登川地区の将来像を一言で表現するキャッチコピー

★水がきれいな能登川地区
★のどかできれいな能登川地区
★ホタルとコイが住むまち能登川
★昔ながらの暮らしが息づく水のまち能登川
★生き物と自然の古き郷能登川
★野鳥のまち能登川
★自然の恵み豊かな能登川
★居心地の良い心和む場所能登川
★自ら活気が湧き出すまち能登川
★古い歴史・文化のあふれるまち能登川
★うつくしい水が流れる限り回り続けるまち能登川
★きれいな水を流すまち能登川
★きれいな水に誘われてホタルが来る能登川
★伝統を今に伝える能登川
★能登川のマイナスイオンでリフレッシュ
★清らかな水、カモの行進、癒されるまち能登川
★緑あふれ、歴史が続く能登川
★元気になれる（健康になれる）能登川
★澄んだ水がある穏やかなまち能登川
★水車とともに動くまち能登川
★歴史が燦々自然あふれるまち能登川
★のんびりとした時間、トトロの葉っぱ、まるでジブリ
★静かな場所、なんだか少し懐かしい

５．市民活動団体説明会の開催結果

〇開催日：平成 28 年９月９日
〇参加者：１９名の皆さんに参加いただきました。

出された主なご意見等（※　後日、追加で提出された意見を含む）

【第１章　計画改定に当たって】

★計画期間の 2040 年はいかにも長すぎるのではないか。最長でも、10 年までだろう。もっと短くした方が、はっきりし、具体的になる。

★長期的に 2040 年を展望するという考え方は、必要だと思う。

【第４章　まちづくりの理念】

★キャッチコピーについて、旧能登川町時代の総合計画「水・緑・人が輝く水車のまち能登川」は大きなテーマであった。このキャッチコピーから広げていけばいい。

【第５章　事業計画】

（総論）

★この事業計画では、「点」ばかりで、「面」になっていない。「一部の人」が考えた計画としか捉えられない。たくさんの漏れがある。

★このように計画書が「活字」になると、みな立派に見えてしまう。問題は、23,000 人の住民との関係性である。

★あえて言わせてもらうと、「一握りの人」が作った計画かなあとも受け取れてしまう。

★内容が「総花的」になってしまっている。まち協としてのミッションを踏まえた「実行計画書」にすべきである。例えば、３年単位で結果を評価していくとかも必要である。

★「選択（選別）」と「重点化（メリハリ化）」し、住民が何を望んでいるかを踏まえて、優先順位をつけて実施すべきである。

★この原案は、「隔靴掻痒」の感をぬぐえない。もっと「どぎつい」ものであっていいと思う。23,000 人全員の顔色をみなくてもいい。

★繰り返しになるが、住民やマスコミが飛びつくような事業、目玉事業に絞り込む方がインパクトあると思う。
★議論ばかりしていても、何も実現しない。例えば、１年先に実現するとか、ある程度ピックアップして、こういうことをするという考え方で進めていくべきである。

（各論）

＜水文化の保存・再生・活用＞

★例えば、きぬがさ山トンネルのところの湧水を使って鱒を飼うとか、釣りをするとか、簡単なことから始めてはどうか。

＜歴史・文化＞

★「神郷亀塚古墳」を見学できるルートづくりとかも、地域活性化の一つの方法だと思う。
★「のとがわの昔話（能登川町発刊）」という本が出版されているが、能登川地区の昔話を掘り起こして、子供達に伝承していくことも必要である。

＜産業振興＞

★産業振興の全面見直しが必要である。
★「産業振興」の方策・事業があまりにも少ない。能登川は「農業のまち」であるが、農業の担い手（後継者）不足や高齢化の問題が深刻であり、その対策が示されていないのはおかしい。産業振興が「観光人材育成」だけでは弱すぎる。
★農業を喜べるようになるとか、安心して年をとれるようになるとか、そのための対策にもっと激しく（厳しく）切り込んでアプローチしていく必要がある。
★ＪＲ能登川駅を基点として（活用して）、観光地としてもっと売り出すべきである。

＜教育・福祉＞

★教育・福祉については、喫緊の課題として地域として取り組まねばならない。超高齢化社会での助け合いの取り組みを掘り下げる必要がある。
★お互いが助け合える福祉の関係づくりが大切である。
★有効な高齢化対策が示されていない。皆が安心して住める対策がないと困る。
★一番の課題は「高齢化対策」だろう。国の「介護予防・日常生活支援総合事業」をまち協がどう引っ張っていくかが問われている。そのためには、住民の協力が欠かせない。

＜防犯・防災）

★自主防災について、「見える」または「体験する」機会をつくって学んでもらう。

＜その他＞

★若者の選挙投票率を向上させる取り組みなども、まち協の仕事ではないか。

６．まちづくりカフェの開催結果

〇開催日：平成 28 年９月２４日・２５日
〇参加者：小学校区ごとに４回開催し、計 53 名の皆さんに参加いただきました。

出された主なご意見等（※　後日、追加で提出された意見を含む）

＜事業計画全般＞
★計画の実行書が必要。計画をどう活かすか。選択と集中（優先順位を付ける）。
★時代の変化に合わせて、切り捨てるものは切り捨てないと、新しいことに取り組む余裕が生まれない。新規事業に取り組める体制をつくることが大事。
★まちづくり計画に、もう少し具体的な内容を表現されたい。

＜生きものにぎわい＞
★「地域資源」としての竹林の利用を。
★「伊庭の水辺景観」の日本遺産認定はありがたいが、自治会として取り組む余裕がない。ゴミとトイレの世話に苦慮している。別団体を組織して対応すべきかもしれない。

＜地域の宝＞
★能登川には良いところがいっぱいあると感じている。子どもにとって誇りになる。
★「鏡蓋（ががぶた）」の保全を。
★「宝」はたくさんあるにもかかわらず、活かされていない。

＜歴史・文化）
★人材（シルバー世代）の活用を。
★定年退職者の生きがいをつくってあげる。
★歴史や文化をビデオにして蓄積を（次代への継承の手段として）。

＜産業振興＞
★農業（振興）についてのアピールが足りない。
★農地保全のためには、経営の安定を図り、後継者を育成する必要がある。まち協はこれにどうかかわれるか。

★農業体験を拡げたい。魚のゆりかご水田事業について、現状は県と協力しているが、出来れば市や地区ともっと協働でやりたい。広報等協力してもらえるところが増えるともっと広がる。
★食の地産地消について、親子での郷土料理教室の開催を企画しているが、こうした活動を地元から拡げていくサポート役をまち協に担って欲しい。
★食（モロコ、米）のＰＲを。地場産業として情報提供を。
★ＪＲ能登川駅を基点にした観光アピールを考えよう。
★能登川の観光情報が余りにも少ない（ホテルや駅で見掛けない）
★情報発信力が不足している。駅やホテルで見掛けるのは五個荘のチラシばかりで、能登川のＰＲが全くない、情けない。
★能登川地区にはこれといった観光スポットがない。箱庭的な魅力（里山・里湖・河川）があるのに、それが「観光資源」として活かされていない。

＜交通＞

★駅前の活性化という点では、東口の活性化が能登川地区の重要課題。せっかくの新快速停車駅のメリットを活かせていない。
★ＪＲを挟んで東西のギャップやつながりの弱さがある。

＜子育て＞

★イベント等で妊婦さんも参加できる工夫を。

＜教育＞

★青少年育成市民会議能登川支部が取り組んでいる「あいさつ運動」を追記する。

＜福祉＞

★自治会は、少子化高齢化で立ちいかなくなっているが、住民にその危機感がない。まち協は、この問題にどうかかわれるかが問われている。
★認知症による徘徊者の早期発見・声掛け訓練も、地区全体が同じ方向を向いて取り組むことが大事。
★お互いが顔を見ながら話し合うことが大切。気軽に話のできる場づくりから。
★コミュニケーションの場が世代間交流を促し、孤立化を防ぐ。

＜世代間・地域間交流＞

★高齢化が進む中、一方で若者の流入もある。うまく交流できないことが課題。
★イベントは、興味のある人を集める努力が要る。
★興味のない人に興味を持たせる情報の伝達方法を生み出すことも必要。
★各範囲（分野）で参加できるイベントがほしい。
★日常的にまち協と触れ合ってする事業がない。
★人材育成はまちづくり協議会の本命の仕事。「他人任せ」にせず、「自分事」として取り組むことが重要。

＜人づくり＞

★中学生の声として、「僕らもまちづくりに参画したい」。

＜若者の定住促進＞

★結婚応援（サポート）として、「男塾」みたいなものも案外有効かもしれない。

★若者定住に関連して、工場に限らず、能登川地区で働ける場所の確保を（企業誘致）。若者誘致のためには、幼稚園の拡充をして欲しい。

★空き家を住民の居場所づくり（簡単に集えるところ）として活用してほしい。

★まち協が業者とタイアップして（空き家活用希望者の登録制）、空き家の利用進展を図る。

★空き家の「活用」も重要だが、「出ないようにする」対策も必要だ。

＜防犯・防災＞

★愛知川河畔林の竹の伐採活動は「防災」につながる。河畔近隣自治会だけでなく地区全体に協力を求めるべし。

★危機管理意識を植え付けることが地域をよくする。自主防災（自助・共助）活動が地区防災の原点。

★愛知川周辺の複数の自治会が核となって、水害防止のインフラ整備を市へ要望したい。

★各自治会は、防災訓練を確実に実施し、自主防災力を高める努力を怠っては行政への要望も通らない。まち協も支援を願いたい。

＜情報提供・発信＞

★まち協は情報発信力が課題。情報の伝え方に課題がある。

★交通や宅地など、住民の関心事に関する情報提供をまち協に期待する。

＜まちづくり協議会の基本姿勢＞

★支所との連携と役割分担を。地域担当職員制度、地域応援隊との協働で実を挙げること。

★本町で地域おこし協力隊員が頑張っている。まち協もこれを支援する。

★まち協は、もっと積極的に地域に出向いてほしい。これまでは「待ち協」。

★まちカフェなどで、定期的に情報をフィードバックしてくれると、まち協を身近な存在に感じるようになるのではないか。

★まち協の活動が知られていない、住民にとっての「自分事」になっていない。

＜まちづくり協議会の役割＞

★自治会・団体・ＮＰＯとのつなぎ役を担って欲しい。旧能登川町時代の連携の良さを取り戻してほしい。

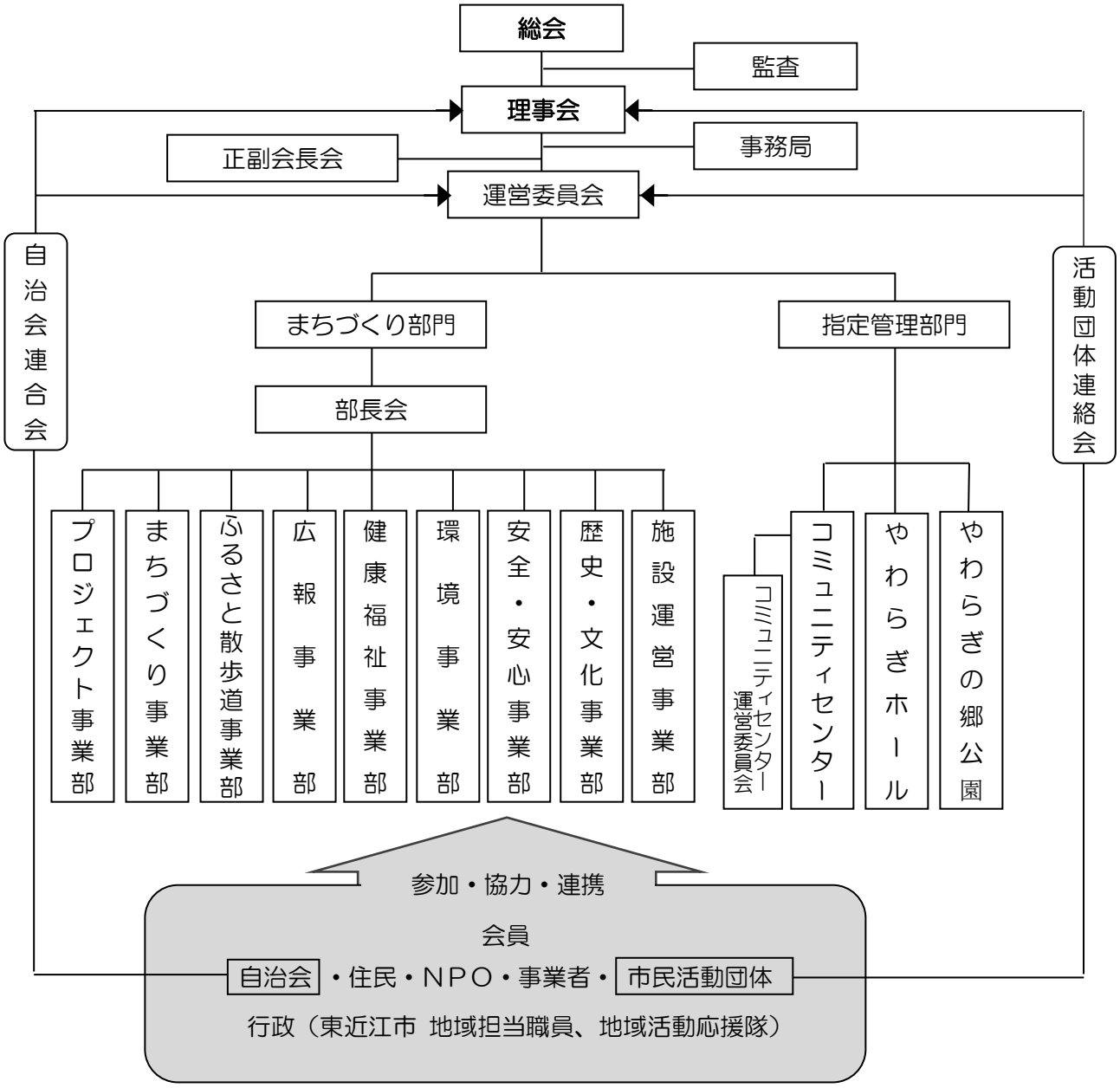
★皆さんの声を捉えて行政や公共セクターに届けるのがまち協の役割。

★今回（H28）のアンケートは一定評価する。自治会の活性化を「サポートする」役割をまち協に期待する。

＜キャッチコピー＞

★私のまち　My Town、★水・緑　そして　笑顔、★安全・安心・やすらぎのまち、★水車・水・・、★清流のあるまち、★ちょっとよりみち　のとがわへ、★田舎だけど　ホットなまち、★あなたの住むまち　水と学びと新快速、★ホットだけどほっとするまち、★ホットほっとのとがわ

一般社団法人能登川地区まちづくり協議会 組織図 （平成 28 年 10 月現在）



能登川地区まちづくり計画策定委員会　委員名簿

（敬称略、順不同）

委 員 長：　谷口浩志（びわこ学院大学短期大学部教授 ライフデザイン学科長）
副委員長：　四方秀亮（(一社)能登川地区まちづくり協議会 副会長）
委　　員：　大橋正徳（東近江市青少年育成市民会議能登川支部長）
杉浦隆支（東近江市能登川博物館学芸員）
門脇　宏（公募）
村西　宏（公募）
村林淳子（公募）
田中光一（東近江市社会福祉協議会：平成 27 年度）
池山紘一（東近江市社会福祉協議会：平成 28 年度）
増田健多（地域おこし協力隊員：平成 28 年度）
事 務 局：　今井陸之助、大橋正司

一般社団法人能登川地区まちづくり協議会

〒521-1205 滋賀県東近江市躰光寺町 262 番地
東近江市立能登川コミュニティセンター
IP 電話：050 - 5802-2793
FAX　　：0748-42-1556
ホームページ:http://notomatikyo.com/
E メール：notomatikyo@e-omi.ne.jp

発　行：平成 28 年 10 月

＊表紙イラストは児玉紘一氏（能登川地区在住）に
お願いしました。